

これまでの議論のキーワードについて

- 市民幸福度の最大化
- お金ではなく、“知恵”と“力”を出そう
- 地域住民との対話
- 地域ごとの人口減少対策
- 女性が活躍できない、暮らしにくい社会は、男性、高齢者、子どもも暮らしにくいはず
- 「買う力」が強くなり過ぎて、「創る力」「考える力」が弱くなってきた。
- 「経済」とは必ずしも「お金」だけを指すのではなく、「自給自足」「物々交換」などの3つの経済がある。地域の疲弊は「自給自足」と「物々交換」
- 依存型社会からの脱却
- 高齢化をマイナスに捉えるのではなくプラスに
- 市外の人がどのように思っているのかの移住者目線も大切。しかし、「今住んでいる人たちが地域を愛し、自慢できるか」がもっと重要
- 定住者が日々の暮らしのなかで幸せを感じることは生活感幸
- 甲賀市の魅力を外からの視点で再発見しよう
- 人口減少のためにまちづくりをするのではない。高い理念が必要。
- 特に中山間地域における兼業農家への支援
- 憧れの農業者を育てよう。
- 人と人の繋がりの中で生産・販売を行い、地産地消と域内経済の循環
- 地域が儲かる産業の育成
- 学生が地元でUターン就職していただけるような支援
- 中山間地域での定住者への優遇（荒廃地や山林の保安林化など固定資産税の優遇。特区制度など）
- 伝統行事を守る、村人の誇りと責任感
- 文化財と自然の調和
- 史跡と文化財の「のびしろ」は無限大
- おかみさん達の女子力の強さ、おもてなしの心。
- それぞれの観光資源のつながり⇔独自色の発揮
- 空き家対策と移住支援の充実
- 各地域の不要な部分（行事）はやめる。古い習慣や閉鎖的な風土の改善
- 人口減少のプラスの面を活かそう
- 貴生川駅周辺の住宅造成などの活性化
- お祭り、焼き物、農業、山の神、土の神＝「聖地の甲賀」
- 家族の絆（家族で話し合いをする機会）の大切さ
- 女性が働きがいをもてるまちへ
- 誰もが最後はここで幕を降ろしたい。終の棲家としての魅力。
- 甲賀の誇る田園風景の維持
- 「甲賀らしさ」とは

- 「幸福度」とは
- 「おもてなし」とは

強み

- 自治振興会の立ち上げ
- 県内工業製品出荷額1位
- 工業団地の集積
- 新名神の利便性
- 高卒求人倍率の高さ
- 給食制度
- 便利な田舎
- 水口高校郷土芸能部を活かす

弱み

- ワーク・ライフ・バランスの浸透の遅れ
- 農山村地域での過疎化の進展
- 農業、地場産業の後継者不足（育成、金銭的助成が必要）
- 飲食店が減っており、サービス産業が弱い。特色ある店が少ない。
- 宿泊施設の不足
- J R 草津線など公共交通の弱さ
- ものづくり企業へ就職する高校生の不足（工業系高校の必要性）
- ものづくりの魅力を全国へPR
- 働くことの楽しさをPR
- 住宅の不足
- 安定した工場がある一方で、経済情勢による撤退リスクが避けられない。
- 若者、女性の働く場（職種）の不足
- 多様な保育支援の充実（病児、延長、通園など）
- 信楽焼産業の低迷
- 大学、高校の不足
- 国道沿線の景観の悪さ

強みを活かして攻めること

- 小規模多機能自治の取り組みの加速

弱みを補うこと

- J R 草津線の複線化、J R 草津線、信楽高原鐵道、近江鐵道への新駅設置
- 映像を活かした全国的な発信
- 観光ツアー会社との連携による着地型観光の充実
- 食べ物を活かした観光資源
- 空き家の活用（あっせんなど）と地域とのつながり支援

- 安定的な1次産業の育成（6次産業化の繁忙期、閑散期の支援）
- 大学の誘致
- 新たな住宅開発誘導
- 起業、創業支援の拡充
- 研究施設や国の外郭団体誘致
- 宿泊施設（ホテル、ビジネスホテル）の整備
- 貴生川駅周辺への住宅開発誘導
- 貴生川駅の交通ハブ機能の充実（エスカレータなど）

もっと支援すべきこと

- 外国人の方も暮らしやすい社会
- 女性への支援（特に企業、男性への支援）
- 出産～15歳までの支援（報奨金、奨学金など）の拡充
- 不妊治療助成制度の充実
- 子育てパンフレットの充実
- 地域資源(6次産業)の販売場所となる道の駅、農家レストランなどの充実
- 結婚支援
- 既公共施設の財産整理（使用状況などを整理）
- 公民館等の既存公共施設の活用（規制緩和）